

2017年03月31日

## 日本の海岸線を歩く会 歩行報告書

報告者:友松知宏

## 1. 概要

地域分類	沖縄1周-3
歩行区間	スタート地点： 沖縄県石川市赤崎／ホームセンタータバタ ゴール地点： 沖縄県国頭村辺土岬
実施期間	平成29年 3月13日(月)～19日(土)
全歩行距離	119.0 Km

## 2. メンバー表

No.	役割・分担	氏名	年齢	歩行日数	備考
1	リーダー&記録	友松知宏	76歳	4日	8期
2	会計	友松和子	77歳	4日	知宏/妻
3	—	尾崎正彦	79歳	4日	4期

## 3. 歩行の概要

## 第1回歩行

	月日	出発地～到着地	歩行距離	参加者	備考
1	3月13日	JR米子駅=(夜行バス)=神戸三宮=神戸空港	—	友松、和子	
2	3月14日	那覇空港(集合)=石川市赤崎 ～名護市瀬嵩/海と風の宿	36.0Km	友松、和子 尾崎	海と風の宿
3	3月15日	海と風の宿 ～東村/東村地域交流館	31.2Km	同上	旅の宿朝日屋
4	3月16日	東村地域交流館 ～国頭村辺土岬とINDIGOの中間点	47.6Km	同上	空の間INDIGO
5	3月17日	辺土岬とINDIGOの中間点 ～辺土岬=大石林公園=古宇利島=那覇空港解散	4.2Km	同上	民宿よんな～
6	3月18日	民宿よんな～=斎場御嶽=首里城=那覇空港 =那覇空港=神戸=米子	—	友松、和子	

119.0Km

## 4. 費用

		友松	尾崎
交通費	JR・航空運賃	61,800円	42,000円
	レンタカー・ガソリン・高速	9,500円	7,100円
宿泊費		25,600円	18,000円

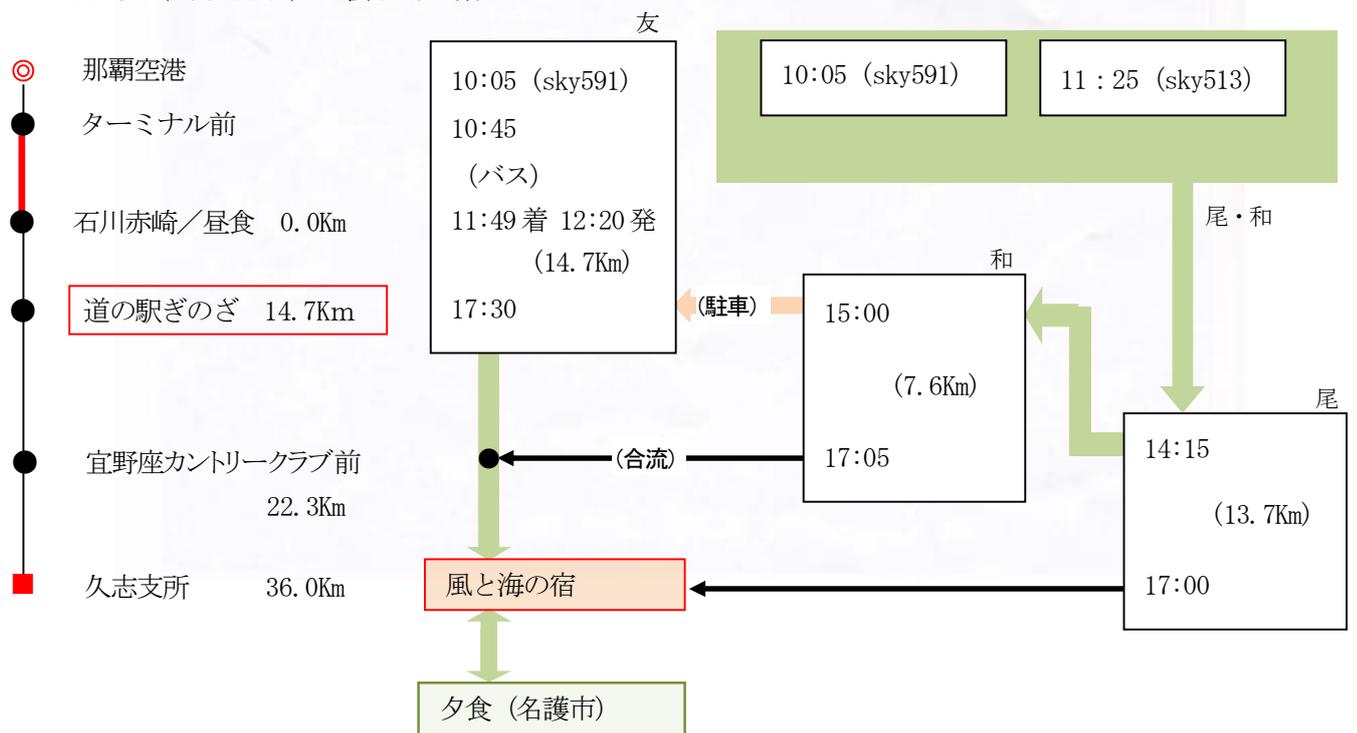
飲食費		7,200円	5,000円
その他	入館料・自転車	4,100円	3,000円
合計		108,200円	75,100円

## 5、地図



## 6、詳細説明

1日目 (3月14日) 曇り時々雨



友松知宏（以下友松）、友松和子（以下和子）は那覇空港に定刻10:05に到着。友松は10:45 発名護行バスに乗り石川赤崎ICから道の駅「ぎのぞ」まで歩行。

尾崎正彦（以下尾崎）は11:25に到着。和子とレンタカーを借り、宜野座CCまで走り、尾崎が車を降り、今日の宿久志の民宿「風と海の宿」まで歩行。和子が車を運転し道の駅ぎのぞまで戻り、車を駐車場に置き、宜野座CCまで歩行。道の駅に到着した友松が車を回収。宜野座ccで和子を拾い、民宿風と海の宿にチェックイン。

風と海の宿のオーナー成田さんは交通事故で車いす生活者だが陽気で、宿泊者に人気があり、この夜も、名護市まで食事に行って帰りが遅くなったが、まだみなさん食堂にいて、私たちも紹介され、北海道から来た若者竹浪さん（写真の黒シャツ姿）から「フレイフレイ都立！」のエールを頂いた。

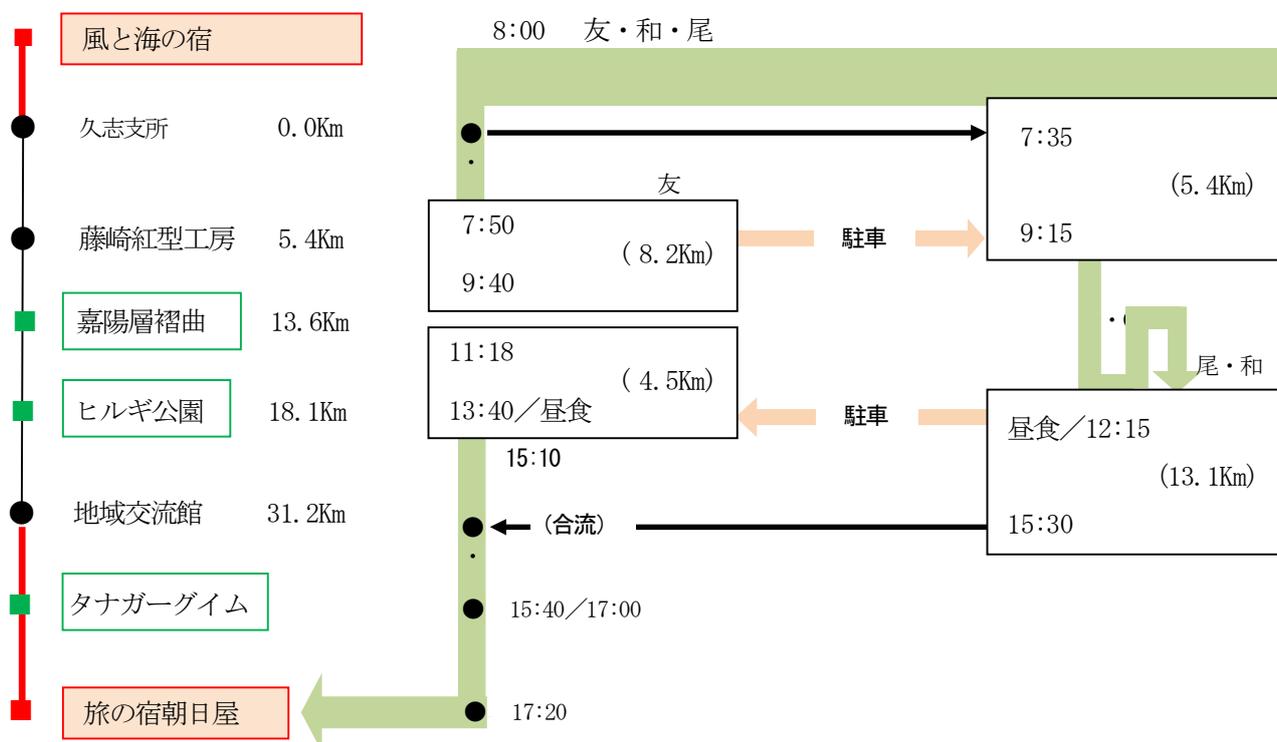


借りた軽ステラ／道の駅ぎのぞ

風と海の家で成田さん（左）竹浪さん（右）

翌朝出発前

2日目（3月15日） くもり



7:30 出発。友松が車で名護市安部の藤崎紅型工房へ行き、そこから東村役場まで歩く。尾崎、和子は久志から藤崎工房まで歩き車を回収。天然記念物嘉陽層の褶曲（地殻変動で複雑に折れ曲がった断層）で合流。断層を見学後、全員車に乗りヒルギ公園へ行き、ヒルギ（マングローブ）の密林を散策した。



嘉陽層の褶曲。激しい地殻変動の痕跡



ヒルギ公園入口（シオマネキ石像）



ヒルギ（マングローブ森林）

友松を先刻合流した嘉陽層の褶曲まで連れ戻し、再度ヒルギ  
戻り、車を置き、公園まへの沖縄ソバ店東花（あがりばな）で昼食し、東  
村東部地域交流館まで歩く。

友松はヒルギ公園手前のレストラン帆風で昼食。ヒルギ公園で車を回収  
し、尾崎・和子組を追いかける。



沖縄ソバの店東花で



こちらで立つ守護神シーサー



帆風のオーナー島袋美香さん

立ち奇る。滝まで降りるのにかなりの急坂  
を下らなければならず、メニエル氏症候群症  
の友松は、平衡感覚が悪く同行の二人に心配を  
おかけした。



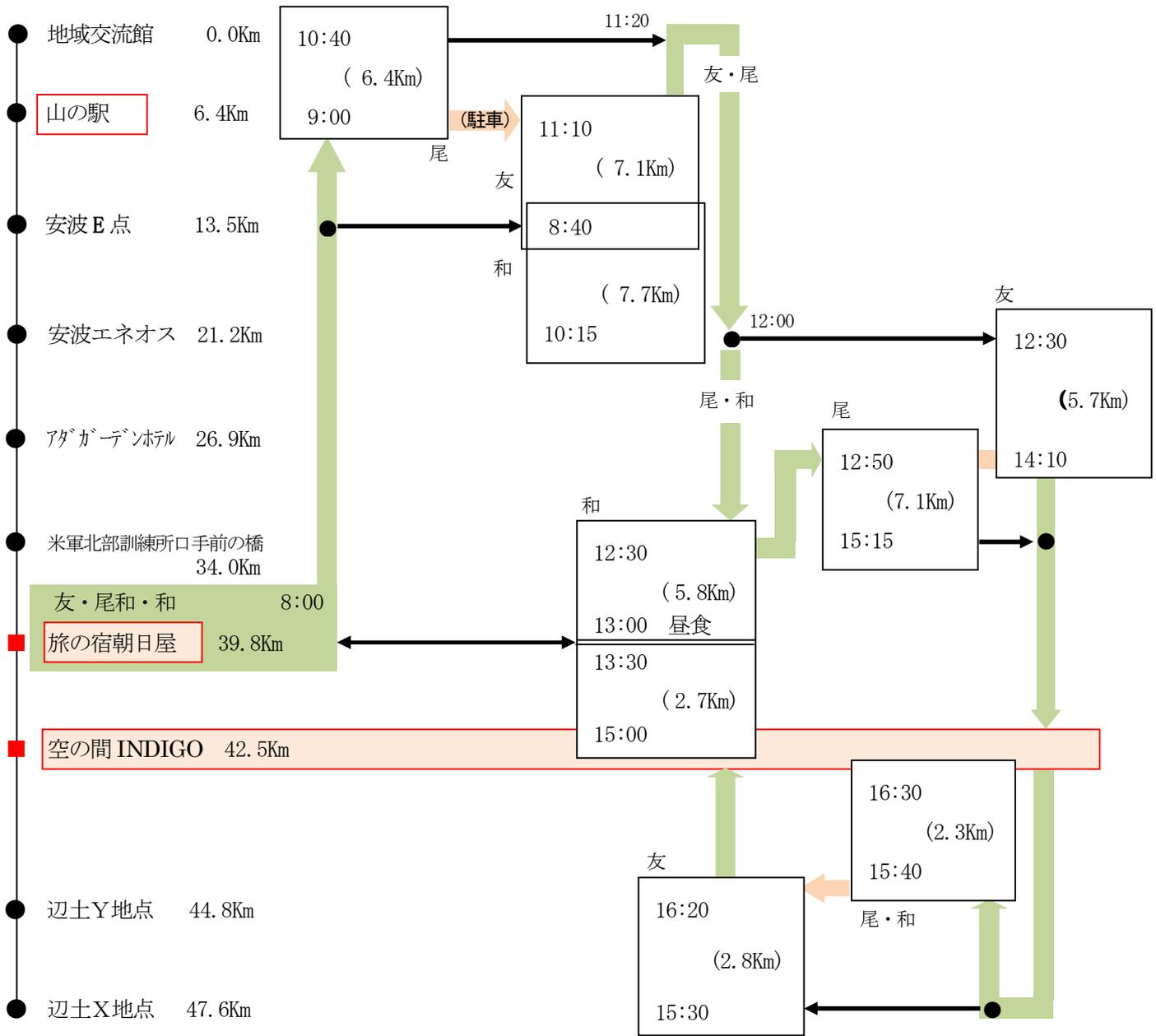
タナガールグムイ

朝日屋は太平洋に面して東に向かって建てられており、日の出が部屋から見えることからこの屋号がつ  
けられている。翌朝を楽しみに、朝食の時刻も早くしてもらったが、翌日も曇り空で日の出をみることは  
できなかった。ご夫婦自製の建物で、隙間風が入り込み、波の音もしっかり聴えるが、手作りの食事は愛情  
がこもった家庭料理で、おいしく頂いた。



旅の宿「朝日屋」

3日目 (3月16日) くもり



8:00 出発。全員そろって車でE地点（国頭村と東村の境）へ。友松と和子を降ろし、尾崎は更に走り、山の駅まで行き、そこへ車を置き、昨日の終点東村東部地域交流館へ歩行。途中、ヘリパット建設反対の座り込みがあり、テントでコーヒーをご馳走になりながら話を聞く。声を荒げることもなく、静かに自分たちの願いを伝えてくる。しばらく歩くと、マングース捕獲作業中に出会う。ヤンバルクイナ保護のため。11:10 友松が車を回収し、地域交流館で尾崎と合流。安波のエネオスで和子に合流。



ここから尾崎、和子は車で次の中継地へ向けて出発。友松はアダガーデンホテルへ向かう。

尾崎、和子は米軍H区部訓練所入口手前の橋で和子は下車。北行し朝日屋で食事。そのまま今日の宿「空の間インディゴ」へ向かい、尾崎はUターンしてアダガーデンに車を置き、T字路手前橋に向かう。

友松は車を回収、橋で尾崎さんを拾い、空の間インディゴへ向かい、インディゴで合流。時間があつたので、明日の予定地辺土までの中間地まで歩くことにする。3人で中間地点Xまで行き、友松が下車、インディゴとの中間地点Yへ歩行。尾崎、和子は車をY地点に車を置き、インディゴへ向かい、全員合流。



空の間インディゴ/柴田 望さん（ノンちゃん）と憲二さん（ケンちゃん）

沖縄北端の森に隠れた「空の間インディゴ」は若いオーナーご夫妻のイーハトーブ（理想郷）である。

ここに来る客は、つかの間、世俗をはなれたこの森に心を解き放ち、魂をあそばせ、癒され、そしてまた俗世界へ帰って行く。一步外へ出て振り返ってみると、いまの今までであったはずのイーハトーブは森の中に消えて、そこに居た時間は、夢の中の出来事のように、遠い昔に去って行く。

森に囲まれた屋台のような食事場で椅子代わりにブランコに座り、料理を頂きながら、お二人のお話を聞いた。長い遍歴の末にここへたどり着いたと淡々と話される。

700坪の森に小径がつけられ、宿泊棟、浴場、ギャラリー、ツリーハウス（樹の上の家）などが配置されている。すべて手造りである。鶏が放し飼いされ、朝食の玉子焼きの材料を自給。小径を抜けると、竜神の浜と名づけられた砂浜が開け、岩に穿った洞窟に入ると竜の胎内に入ったような錯覚に捉われる。

食事までの時間、縦笛を吹くと森中の鳥たちが一斉に鳴き始め、その賑やかさに驚かされる。動物たちも笛の音を聴いてくれているはずで、まるで宮沢賢治の「弾きゴージュ」の世界。狸の親子がきて、子狸の病気を治して帰っただろうかなどと想像すると、何とも言えず楽しい。

望さんの書かれた詩を紹介する。

KINOA TO ENPITU

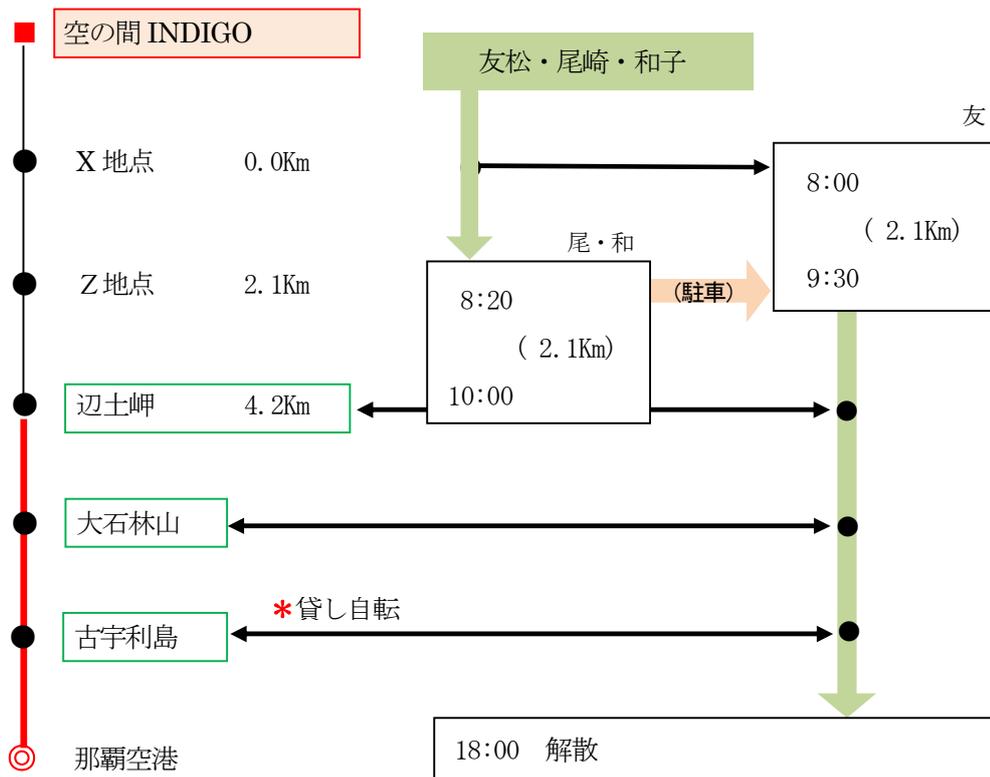
KORE WO MOTTE

GURUGURU NO NAKA E

“GOMENNE” NO OMOI

SORE WO HA NI TUZURI

SONO HA WO MUSUBOU



8:00 車で出発。昨日の終点X地点で友松は降り、歩行開始。尾崎・和子はX地点と辺土岬の間で車を置き、辺土岬へ向けて歩行。友松は車を回収し、辺土岬で尾崎・友松と合流。ここで沖縄歩行一3を終了。辺土岬で約1時間辺土岬を散策し、すぐ近くにある観光地、大石林山を約1時間散策し、次の目的地に向かって出発。途中から雨。



沖縄本島北端辺土岬

古宇利島の手前、屋我地島のレストラン美らテラスで食事をし、自転車を借りて古宇利大橋をわたり島を1周。雨が降ることもあり、早めに帰ることにして、許田ICから沖縄自動車道に入り、那覇空港へ向かう。16:30 那覇空港で解散。



大石林山

古宇利大橋を自転車で渡る

友松、和子は糸満市大度の民宿よんなーに宿泊。夜、渡嘉敷

縄民謡を歌って下さった。美しい声で、他所では聴けない沖縄の古謡などを聴くことができ、思いがけぬ楽しい沖縄の一夜を過ごさせ頂いた。「よんなー」とは沖縄方言でゆっくりという意味だそうで、今回初め知った。ゆったりした沖縄の一夜。また一つ、沖縄の思い出ができた。

よんなーにはこれで3度目。来年はここを拠点に神の島、久高島他を巡ってみたいと思っている。



民宿よんなーで沖縄民謡の一夜。渡嘉敷さん（左）とお友達の太田里美さん（右）

翌日（3月18日は沖縄の聖地、斎場御嶽と首里城を訪ね、15:00 那覇空港発神戸空港行スカイマークで帰鳥した。

## 7、メッセージ

別紙

以上